

AMDA

会議中に地震の情報

インドネシアへ

岡山の医師ら派遣へ

航空機手配や医薬品準備

「少なくとも百人以上が死んでいるらしい。七日朝にインドネシア・スマトラ島で起きた大地震のニュースが、岡山市奉還町二丁目の国際交流センターで開かれているアジア太平洋緊急救援フォーラム（アジア医師連絡協議会ⅡAMDA、菅波茂代表Ⅱ主催）の会場で飛び込んできたのは、グループ別の討論会を開いていたときだった。AMDAは急ぎよ医療チームを派遣することを決めるなど、素早い立ち上がりを見せた。

参加者約五十人がアジ

中、会場の受付で待機して

いたAMDA会員らのもと

へ、通信社のファクスが次

々と送られてきた。「死者が百人以上でいる模様で、まだ増える見通し」「シンジョーラウ村では家屋の九〇%が全半壊」



菅波代表らは、会場から

このニュースを受けて、

電話で航空機の手配や医薬品の準備に追われた。

AMDAは、会議に出ていたインドネシア人医師や、会員で岡山市の三宅和久医師（三宅）と横浜市の服部浩也さん（三宅）を調整員として、

情報を確認するため、会議に参加していた静岡県浜松市の聖隷三原病院の岡

現地へ派遣することを決めた。

菅波代表は「地震の死者だけでなく、病気が広がるおそれがある。設立するネットワークがうまく働くように活動を成功させた」と話している。

菅波代表は「地震の死者だけでなく、病気が広がるおそれがある。設立するネットワークがうまく働くように活動を成功させた」と話している。



大地震が起きたインドネシアに医療チームを派遣するため、対応に追われるAMDAの菅波茂代表（左から二人目）ら

岡山奉還町二丁目の国際交流センターで

岡山奉還町二丁目の国際交流センターで